

## プロジェクト科目活動紹介～クラスレポートより～

同志社大学プロジェクト科目では、プロジェクト科目ホームページ内で、各科目の日々の活動の様子から成果の報告までを発信しています。7月に入り、受講生より春学期の活動報告が日々寄せられています。今回は、その一部を抜粋してご紹介いたします。

詳細はプロジェクト科目のホームページをご覧ください。

プロジェクト科目

検索

### ●心ぬくもる「絵本」に出会う ～絵本ソムリエ・プロジェクト～

春学期は、絵本を読むことで、絵本のもつ力について考え、メンバーと意見を交換し合い、絵本と触れ合ってきました。その総まとめとして、6月末に新町キャンパスの近くにある「be-京都」という町屋をお借りし、プチイベントを開催しました。このプチイベントでは、メンバーをAチームとBチームに分けて活動しました。Aチームは、「絵本を通して幼少期の感覚を懐古する」をコンセプトとしました。1つの絵本を題材に、成長した今は感じるものが少なくなった、子どもの時に感じた些細なことに対する恐怖を懐古するという内容でした。Bチームは「誰もが通る道」をコンセプトとし、私たちが経験してきた人生とこれから開かれる未来という形で4段階に分け、各段階にその時を思い出させる物と、段階にあった絵本を配置し、それぞれの段階の際に感じていた思いを表現しました。このプチイベントを通して、両班に共通していたことは「実体験を通して、昔に感じたことを思い出す」ということでした。このアイデアを生かし、秋学期に行うメインイベント開催に向けて今後も励んでいこうと思います。

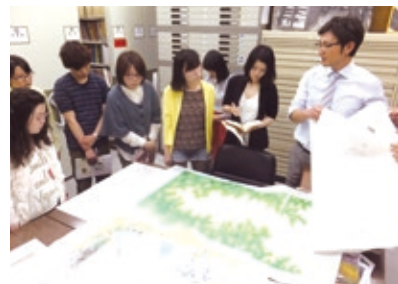
(政策学部2年次生 金高美紀)



### ●京都発のキリスト教祭服を 世界に発信する

私達のプロジェクトは、友禅染によるキリスト教の祭服を企画・制作し、京都の伝統文化を世界に発信することを目指しています。現在、国内のキリスト教会において、和風の聖堂建築や祭壇画への試みが一部に見られますが、祭服、掛布、祭具のほぼ全てが海外からのカタログやネット販売品です。また、聖職者の祭服がチャペルで結婚式をあげる新郎新婦の衣裳と比べ、いかにも画一的です。そこでキリスト教の大学である同志社に在籍する私達と、友禅染の老舗「株式会社千總」様が共同して、キリスト教文化と京都の伝統産業との異文化コラボレーションを実現させた、京都だからこそできる今までにない祭服をつくらうと考えています。

同志社大学のクラークチャペルでの結婚式を想定した最終発表を1月に行う予定です。



(文学部2年次生 大出ひすい)



2013年度プロジェクト科目春学期成果報告会の様子

同志社大学PBL推進支援センターでは発足後、PBLに取り組む全国の大学とともに、PBLに関わる各テーマについて意見交換を行いPBLの推進、研究をすすめてまいりました。その中のひとつに「PBLの学習効果に関する測定」が挙げられます。学生たちは卒業後、社会の中で何らかの学習効果を確認できているか、またそれをいかに測定するかという問題です。学生はPBLを経験する中で多様な力を求められ、そこで得た力は、現在進行形の学びのプロセスの中で発揮されていきます。彼らは社会に出てからもチャンネルをきりかえずに、学んだことを活かしているのか、または、活かそうとしているのか。PBLが厳しい現代社会の中で生きていくのに必要な学びであれば、フィールドが変わっても共通する効果や課題は見えてくるはず。同志社大学PBL推進支援センターでは、今年度一年間、学生が卒業後に体験している様々な現場を通して、PBLにおける学習効果を検証し、今後の本教育のあり方について、さらにテーマを発見し研究をすすめてまいります。

# PBL

Project-Based Learning

## 推進支援センター通信

VOL. 8

## PBLとキャリアデザイン～学ぶ「構え」を学ぶ～

プロジェクト科目検討部会長 PBL推進支援センター長  
文学部教授 山田和人

実践型・参加型の教育スタイルの場合、その学習効果をいかに測るかが問われることが多い。もちろん、教育プログラムにおいてアウトカムが問われることは当然のことであるが、PBLなどの社会連携型教育では、学習効果が実社会における種々の活動の中で検証されるところまで見通したプログラムの質保証が問われることになる。ただ、質保証という観点も画一的な評価尺度を適応させただけでは、実態にそぐわないのは言うまでもない。

そこで、PBLの目指すべき目標を試行錯誤のプロセスの中で常時直す必要がある。たとえば、KASの原則を当てはめてみるならば、学習には、知識(Knowledge)・態度(Attitude)・技能(Skill)の三要素が必要といわれる。知識と技能についての教育には小中高大と力が注がれてきたが、残念なことに態度を養うプログラムはわずかに演習・実習科目があるぐらいである。PBLは、まさにこの「態度」や「姿勢」、あるいは「構え」を養う教育のひとつでもある。

プロジェクトという行為を通して、学習者は、自己を相対化し、自ら必要な知識や技能を身につけようと努力し、チームのメンバーと協力して、共通の目標を達成していく。このプロセスにおいて、個々の知識や技能を他者と共有しつつ、それらを一定度の目標に向けて関連づけ、組織化していく。それは個人学習とは違う集団学

習の側面を持っており、チームによって個人の個々の能力が開発され、目標に向けて秩序づけられていくと言ってもよい。

知識と技能の習得に関しては従来の評価法によって学習効果を測定することができるが、それらに関連づける主体の視野や視座がどれほど多面的多層的なものに自ら深めることができたのかは、チームへの個人のコミットメントのしかたによって大きく変化していく。

これについては経過観察が必要であるが、PBLの場合、学びの全プロセスを熟知しているのは学習者自身であり、それを言語化・記録化していく以外に、自己の学びの深まりを把握することは難しい。たとえば、活動記録や議事録・報告書などの記録によって、自らの学習の軌跡を振り返るのもひとつの方法であろう。知識や技能は、参考文献を見るだけでも多くを知ることができる。それらをいかに組み合わせアウトプットにつなげているのかも、それらの振り返りの記録のうえに見事に表現されている。

そこに学ぶ態度・姿勢あるいは「構え」の変化を見出すことができる。学び方を修得することは生涯学習の第一歩でもあり、「学び」の「構え」を身につけることで社会に通用する学習効果が発揮される。プロジェクト科目を受講した卒業生が言う「打たれ強くなりました」には、こうした意味がこめられているのだろう。

### 山田センター長のつぶやき



同志社大学PBL推進支援センターの  
山田和人センター長によるコーナーです。

大学で学ぶ喜びは、お互いに議論し、自分の課題に真剣に向き合い、自分流の解決策を見つけていく方略を発見していくことだろう。自分らしくとか、自分探しくと言われるが、そんなものをひとりで、貧弱な頭の中だけで考えて何かが見えるはずがない。他者と向き合い、自らと対峙して臆に見えるもの！

～山田和人センター長 Twitterより抜粋～

### Pick Up!

京都市営地下鉄烏丸線今出川駅において、南改札口内エスカレーター正面に位置するショーウィンドーに加えて、2013年度より北改札口付近西側通路沿いに新設されたショーケースでも、プロジェクト科目の情報を発信しています。2012年度プロジェクト科目の活動内容や成果物(冊子等)、春学期成果報告会のポスターセッションで使用したポスターなどを一部展示しています。今出川駅をご利用の際には、是非、南北改札口付近にご注目ください。



北改札口付近西側通路沿いの様子

### プロジェクト科目とは?

2006年度から始まった「プロジェクト科目」は、教員が一方的に知識を伝授する講義スタイルとは異なり、受講生自身が構想、計画をし、ディスカッションを重ね、行動する実践型スタイルの授業です。全学共通教養教育科目であり、学部・学年の垣根を越えてチームとして共に活動し、プロジェクトを推進していきます。

【問合せ先】  
同志社大学PBL推進支援センター  
〒602-8580  
京都市上京区今出川通烏丸東入 今出川校地教務課内  
Tel: 075-251-4630 Fax: 075-251-3064  
E-mail: ji-pbl@mail.doshisha.ac.jp  
【ホームページ】  
フォーラム <http://ppsc.doshisha.ac.jp/>  
プロジェクト科目 <http://pbs.doshisha.ac.jp/>

## PBL教育フォーラム2013 開催のご案内

PBL教育フォーラム2013「PBLにおける学習効果の検証―卒業後の現場から―」を開催いたします。今回は、正課・課外を問わず、PBLを経験した学生が、大学卒業後に実社会で経験した事例をもとにPBLの学習効果について議論を深め、本教育のもつ真価を検証し、大学におけるPBLの課題を提示していきます。是非ご参加ください。

日時：2013年10月26日(土) 13:00～16:30  
会場：同志社大学 今出川校地 良心館104番教室  
申込要(先着100名受付)



同志社大学プロジェクト科目では、専門科目としてではなく、全学共通教養教育科目として、学部や学年を超えて様々な学生が受講しています。プロジェクト科目で学んだ経験は、卒業後の現場において、どのように活かされているのでしょうか。今回は「卒業生からのメッセージ」拡大版として、2名の卒業生の声を紹介しします。



北尾 ゆり子 さん

【プロフィール】

2008年度「演劇で地域の子供達と学ぶ」企画実践プロジェクト」、2009年度「国際社会でのキャリアデザイン支援プログラム」、2010年度「京の台所・錦市場がつなぐ「京の食文化」を子どもたちに伝えよう」受講生。2011年に社会学部メディア学科を卒業し、現在、京都信用金庫の営業店に勤務している。

プロジェクト科目を初めて受講したのは2年生の春、入学して1年が経ち、特に打ち込むこともなく、大学生活このままでいいのだろうかと思っていた頃でした。4月の顔合わせでは、学部も年次も違う、見るからに個性豊かなメンバーが揃っていて、とてもドキドキしたのを覚えています。

それから毎年受講していたのは、最初は面識のない受講生達と、プロジェクトを共に創りあげること、とてもいい仲間となれることがわかったからだと思えます。

活動では、まずミーティングの予定を合わせることさえ一苦勞でした。いざ集まれても、なかなか案がまとまらない。それを繰り返して、足踏みしながらも、学外の人に話をきいたり、小学校に企画を持ち込んだりと、現場に一步踏み出すことで、プロジェクトは動き出していきました。

現在、私は信用金庫の営業店で、来店されるお客様の事務手続きをはじめ、運用商品の提案等も行っています。年代も様々で、特に両親より上の世代の方が多く、気さくな方も多いですが、話し方等厳しいお客様もおられます。正しいことを伝えていても、理解されない事もあり、相手に合わせた対応が求められます。そんな中で、世の中の厳しさを感じることは多々あります。

学生時代は同世代の気の合う仲間とだけでも過ごすことができましたが、社会に出ると、仕事を通して関わる全ての方との人間関係を円滑にすることが重要です。お客様はもちろん、家族よりも一緒に時間を共に過ごす上司や同僚とももちろんです。だからこそ、社会に出る前に、プロジェクトで学外の異なる背景をもつ方と話す機会を持つことはとても役に立ちました。

プロジェクトでは、多くの壁にぶつかるかもしれませんが、考えて動き、やり遂げた経験は自信につながると思えます。また、周囲を巻き込んで、人を動かすことを学ぶ絶好の機会となったと考えています。



現在、私は信用金庫の営業店で、来店されるお客様の事務手続きをはじめ、運用商品の提案等も行っています。年代も様々で、特に両親より上の世代の方が多く、気さくな方も多いですが、話し方等厳しいお客様もおられます。正しいことを伝えていても、理解されない事もあり、相手に合わせた対応が求められます。そんな中で、世の中の厳しさを感じることは多々あります。

学生時代は同世代の気の合う仲間とだけでも過ごすことができましたが、社会に出ると、仕事を通して関わる全ての方との人間関係を円滑にすることが重要です。お客様はもちろん、家族よりも一緒に時間を共に過ごす上司や同僚とももちろんです。だからこそ、社会に出る前に、プロジェクトで学外の異なる背景をもつ方と話す機会を持つことはとても役に立ちました。



清水 勇貴 さん

【プロフィール】

2007年度「F1を作ろう! (2007 JSAE 学生フォーミュラーカー大会出場を目指して)」、2009年度「同志社山手」地区におけるまちづくりデザイン提案」受講生。2010年に工学部機械システム工学科を卒業、2012年に同志社大学工学研究科機械工学専攻を修了し、現在は川崎重工業株式会社航空宇宙カンパニーで研究業務を担当している。

「チームで一つの大きな成果を成し遂げたい」と思ったのがプロジェクト科目を受講した動機でした。2年生の時にプロジェクト科目「F1を作ろう!」、4年生で「同志社山手」地区におけるまちづくりデザイン提案」を受講しました。ここでは前者の事例を取り上げることにします。

この科目は、学生が設計・製作したレーシングマシンで大会に出場することを目的とした活動でした。チーム内には様々なメンバーがいるので、個々の事情や用事を抱えた中で全種目完走という目標の共有を図るべく、コミュニケーションをとるよう心がけました。日々の活動は過酷で、時にはメンバーと激論を交わしたり、大会が近づいた頃にはほとんど寝られない日々が続きました。

結局、当初の目標を達成できたのは、プロジェクト科目の受講後

も活動に関わった次の年だったのですが、本大会で完走を果たし、皆で喜び合った時の嬉しさは今でも忘れられません。同時に、この経験を通じてチームワークの大切さと、どんな時も諦めず粘り強く行動すれば夢は叶うという信念を得ました。プロジェクト科目を通して、座学だけでは得られない貴重な経験ができたことの証のようにも感じます。

4年生で再びプロジェクト科目を受講したのも、それまでに身に付けたチームワークや反省等を糧にして、地域社会というより広い範囲で問題解決のために議論する過程を体験したいと思ってのことでした。

現在担当している航空機の研究業務でも、日々問題が発生します。精神的にしんどいと感じる場面もありますが、あの時に頑張れたのだからと思うと、不思議と力が湧いてきます。また、活動で徹底した予定管理、時間管理等のマネジメントとチームで行動するという規範意識が仕事の上でも大切なのは、プロジェクト科目と同じことです。学生時代に何があっても諦めずに最後まで成し遂げた経験は、必ず自分を成長させてくれると思います。



- ◆2013年4月5日(金) 2013年度プロジェクト科目SA・TA説明会
- ◆2013年7月22日(月) 2013年度プロジェクト科目春学期SA・TA協議会

SA(スチューデント・アシスタント)・TA(ティーチング・アシスタント)に向けて、業務のガイドラインやプロジェクト科目に特化した諸手続き、CNS(Community Networking Service)での業務報告や意見交換の方法について、開講前に説明会を実施しました。また、春学期末に行われたSA・TA協議会では、春学期の活動の中で、学生や教員とは異なる立場から俯瞰的に見て気がついたことについて、議論が交わされました。SA・TA各自の持ち味を活かしたサポートは、活動が進むうで受講生の力強い味方になりそうです。



- ◆2013年5月9日(木)・10日(金) 2013年度プロジェクト科目学生担当者説明会

プロジェクトを円滑に遂行するために、リーダー、サブリーダー、会計、CNS、学生成果報告書の各担当者を対象とした説明会を行いました。全プロジェクト科目共通の年間スケジュールの確認、情報発信を行う際の注意事項、授業運営費の出納や申請方法および会計報告、学生成果報告書の作成要領および著作権に関する諸注意など、資料に基づいて進められました。今年度より、「授業運営費決算書」の提出を義務付けており、会計担当の学生は、活動における授業運営費の使用目的を把握し、より正確な支出計画を立てられるよう、説明に真剣に耳を傾けていました。



- ◆2013年7月1日(月) 2013年度春学期プロジェクト・リテラシー講習会

PBL推進支援センター事業として、「伝える技術について～ポスターセッション～」と題し、パワープレイス株式会社濱村道治氏を講師に迎えて、京田辺、今出川両校地において、プロジェクト・リテラシー講習会を開催しました。講習会は、「一方通行のプレゼンと双方向のセッション」の違いを認識したうえで、ポスターセッションとは、ポスターの完成度に頼るのではなく、聴衆といかに「セッション」するかということを目的に構成されました。まず、グループに分かれて、各自が所属するプロジェクトの概要をまとめたポスターを作成しました。その後、作成したポスターを使って、グループ内で「発表者」と「聴衆者」を交代しながら全員がセッションを行い、グループメンバーや講師からアドバイスを受けました。また、各グループの代表によるセッションも披露されました。多くの受講生にとってポスターセッションは初めての体験でしたが、プレゼンテーションとセッションの違いを理解することができました。そして、聴衆の存在を意識することで、自身の発表を振り返ることができ、また、新たな知識・助言を得ることの難しさも知ることができた講習会となりました。



- ◆2013年7月8日(月) 2013年度プロジェクト科目春学期学生懇談会
- ◆2013年8月3日(土) 2013年度プロジェクト科目春学期科目担当者・代表者懇談会

プロジェクト科目受講生代表による学生懇談会を開催しました。懇談会は、春学期の活動報告を中心に進んでいきました。各科目において、活動での問題点は大きく「一部のメンバーのみで活動が行われる」「メンバーの仲が良く、緊張感が生まれにくい」に二分され、両方の立場から相互にアドバイスを行うことで議論が展開しました。秋学期の活動に向けて、アドバイスを各科目の活動に反映させることが必要となってきます。また、担当者・代表者懇談会では、活動報告とともに、秋学期に向けて受講生がより成長するための科目運営について、活発な意見交換がなされました。科目運営の方法はそれぞれ異なりますが、学部や学年を超えた受講生たちがモチベーションを保ちながらも、社会と関わることで得られる学びを習得していくことの難しさは、どの科目とも共通しており、議論は尽きることがありませんでした。



- ◆2013年7月28日(日) 2013年度プロジェクト科目春学期成果報告会

京田辺校地同志社ロータリー記念館にて、春学期成果報告会を開催しました。当日は、オープンキャンパスも開催されており、多くの来校者が注目する中で成果報告会は始まりました。成果報告会は、ポスターセッション形式で行われ、受講生たちはプロジェクト・リテラシー講習会で学んだことを生かして、聴衆との会話を意識しながら活動内容を伝えていました。オープンキャンパスで来校していた高校生から「説明がわかりやすかった」「聞いていて楽しかった」「自分も受講してみたいと思った」との声が聞かれたことから、聴衆を巻き込むセッションが浸透してきたことがうかがえます。また、ポスターの一部を隠して注目を惹きつける構成にした科目や、伝える内容がメンバーによって異なるよう、統一された資料を準備してセッションに臨む科目など、各科目の個性も光っていました。中には、聴衆から手厳しい質問を投げかけられ、思うように答えられず悔しい思いをする科目もありましたが、終了直後に反省会を行う姿が会場の至るところで見られ、この経験を前向きに捉えて成長しようとする様子が感じられる、得ることの多い成果報告会となりました。ポスターセッション終了後は、受講生全員が劇場空間に移動して、審査員から講評を受けた後、最優秀賞、優秀賞およびCNS賞(特別賞)の表彰が行われました。各賞を受賞された皆さん、おめでとうございます。

- 最優秀賞: 子供の成長に良い玩具の考察と企画  
＜京田辺校地開講、春・秋連結科目、中間報告＞
- 優秀賞: 世界遺産をデザイン! ～花「桜」と共に生きる  
吉野山プロジェクト  
＜今出川校地開講、春・秋連結科目、中間報告＞
- CNS賞(特別賞): 音楽は心の薬-高齢者に音楽環境を整える・ラジオを活用して  
＜今出川校地開講、春・秋連結科目、中間報告＞

